

# ウミセミによる採苗器内のホタテガイ稚貝の食害

吉田達

## 目的

ラッセル網地で目合の大きな採苗器袋を使用する漁業者が増えてきたが、ニホンコツブムシ（以下、ウミセミ）が多い場合は間引きや袋替え時に採苗器内にウミセミが入り込む危険性があることから、ウミセミのサイズと袋の目合の関係を明らかにする。

## 材料と方法

平成30年6月13日に平内町茂浦地先の平成29年産貝を出荷中の漁業者の養殖施設において、パールネットからこぼれ落ちたウミセミを回収して、100個体の体幅（図1）を測定した。

また、採苗器のラッセル1.5分（目合4.5mm×4.5mm）、タマネギ袋（目合2mm×5mm）、ラッセル2.0分（目合6mm×6mm）の袋を用いて、体幅が異なる5個体のウミセミが通過できるか目視確認した（図2）。

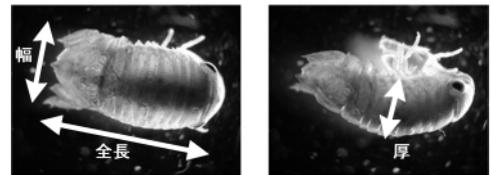


図1. ウミセミの測定部位

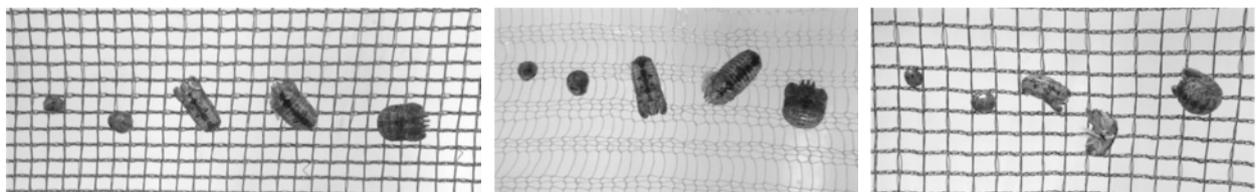


図2. 試験に用いた採苗器（左からラッセル1.5分、タマネギ袋、ラッセル2.0分）とウミセミ（左から体幅4.7mm、5.4mm、6.4mm、7.5mm、8.5mm）

## 結果と考察

ウミセミの体幅の測定結果を図3に示した。平均値は5.68mm、最大は8.46mm、最小は4.58mmであり、体幅5mm台が41%と最も多く、次いで4mm台が30%、6mm台が18%、7mm台が7%、8mm台が4%の順であった。

ウミセミのサイズと採苗器の袋の目合の関係を表1に示した。ラッセル1.5分の場合、体幅4.7mmのウミセミは網目をこじ開けて通過する可能性があるが、5.4～8.5mmのウミセミは通過できないものと考えられた。タマネギ袋の場合、体幅4.7mmと5.4mmのウミセミは通過できるが、6.4mmは網目をこじ開けて通過する可能性があり、7.5～8.5mmは通過できないものと考えられた。

ラッセル2.0分の場合、体幅4.7～6.4mmのウミセミは通過できるが、7.5mmは網目をこじ開けて通過する可能性があり、8.5mmは通過できないと考えられた。

以上の結果から、体幅4mm台、5mm台の小さなウミセミが多数いる場合は、間引きや袋替え時にタマネギ袋やラッセル2.0分を使うと、ウミセミが袋内に入り込む危険性がある。ラッセル1.5分でも4mm台のウミセミが入る込む可能性がゼロではないため、ホタテガイの付着数が少ない場合は、より目合いの小さい袋を使う必要がある。

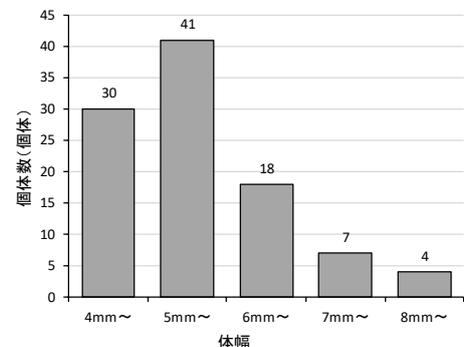


図3. ウミセミの体幅組成

表1. ウミセミのサイズと採苗器の袋の目合の関係

	ラッセル1.5分	タマネギ袋	ラッセル2.0分
ウミセミ① (体幅4.7mm)	△	○	○
ウミセミ② (体幅5.4mm)	×	○	○
ウミセミ③ (体幅6.4mm)	×	△	○
ウミセミ④ (体幅7.5mm)	×	×	△
ウミセミ⑤ (体幅8.5mm)	×	×	×

※○は通過できる、△は通過する可能性あり、×は通過できない